平成１８年度

仁摩中学校キャリア教育
推進地域指定事業

小さな社会でしっかり学んで
大きな社会をたくましく生きる

「キャリア教育＝職業観、勤労観の育成」
これが間違っていることに、まず気がつかなくてはなりません。
イコールではなくて　それは、一部です。
　日本のキャリア教育は職業理解に傾きすぎ、また一方では遠ざかりすぎています。
「人間は、人生においていつかは働きはじめなくてはならない。その準備をするのが、学校の役割である。」
「国土も小さく、地下資源も乏しいこの国で、誇れるのは人間。将来、この国を支える子どもたちが、しっかり将来を考えるように導くのが、学校の使命。」
すごく、スッキリした、端的にキャリア教育を示す言葉です。
この意識の元に、では、何をするかを考えればいいのです。

このPDFは pdfFactory 試用版で作成されました www.nsd.co.jp/share/

平成18年度　キャリア教育推進地域指定事業をふりかえって

大田市立仁摩中学校

■事業の活動内容及び成果と課題について

Ⅰ、推進地域における活動の具体的な内容及び成果と課題

①三年間の本事業の実施を通して開発した小・中・高等学校を通じた組織的・系統的なキャリア教育を行うための指導方法、指導内容について

〇校種ごとに年間指導計画見直すとともに、改善を図り、小・中・高等学校を通じた組織的・系統的な学習プログラム、キャリア教育における題材系統図（各学年）、各教科を関連付けた学習計画を作成し、系統性・計画性のある学習展開をした。

②キャリア・アドバイザーの確保及びその活用の在り方について

〇校内のキャリア・コーディネーターを窓口にして、生徒に新鮮な知識と、地域に向けての活動意識の高揚、教職員のキャリア教育に向けてのスキルアップを考え授業での支援や教職員研修・保護者会の講師として活用することを計画した。また、生徒保護者に効果的に接していただけるタイミング、そしてこの指定後も継続した活用について検討した結果、ハローワーク、ジョブカフェしまね、そして今回組織していただいた仁摩町職場体験学習推進委員会等の関係機関に協力を依頼した。

〇具体的な活用については次のような支援をしていただいた。

・各学期におけるキャリア教育意識啓発セミナー

講師）水産業界、理美容業界、高等学校進学担当者、大学生、NPO 法人の皆さん

・職場体験学習前の直前指導

講師）行政機関、保護者、地域におられる一般の職業人

・職場体験学習中の援助協力

以上の取組から、キャリア教育についての意識付けや深い理解、職場体験学習に向けての生徒の意識が高まったことや、各職場の理解が浸透するといった成果があった。

③職場体験・インターンシップ等活動推進のためのシステムづくりについての小学校・中学校・高等学校の連携方策、保護者・企業等への周知・啓発について

〇３校が集まったときに情報交換を行い、保護者・企業等への周知と啓発を行った。

〇「学校通信」や「仁摩町キャリア教育通信」の発行を通して、職場体験学習やインターンシップの様子をお知らせすることにより、キャリア教育の意義や必要性についての啓発を行った。

このPDFは pdfFactory 試用版で作成されました www.nsd.co.jp/share/

④推進地域における活動の成果と課題について

〈成果〉

〇昨年度に引き続き、小・中・高の３校で、キャリア教育推進委員会を組織し、今年度は特にキャリア教育研究大会に向けての組織作りを再度検討し、別紙資料の編成点を改善した上、各部ごとに話し合って進めた。（今年度の３校連携の組織図資料参照）

〇小・中・高等学校を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を行うための指導方法や指導内容を検討し、学校の教育活動全体を通して行うキャリア教育を教育課程に位置づけることができた。

〈課題〉

〇組織作りを検討し、改善してきたが、今後も継続するためには、時間的な配慮や具体的な方向付けをリーダーとなって進めていく役目が必要となる。そのような立場と物理的な保障が今後はより必要となる。

〇キャリア教育は、学校だけではなく地域保護者との連携が必要となる。その意識を持ち続け、教職員のメンバーが入れ替わっても、同様の活動が継続できる引き継ぎの工夫が必要だと考える。

〇実際に協力を仰ぐときの情報が不足している。現在、行政機関のどの部署がいかに門戸を開いているかといった情報の提供先があると、活動もさらに活性化できると考える。

⑤本事業終了後の推進地域における活動課題に対する今後の取組方針について

〇３年間で培ってきた３校の連携を生かし、これまでやってきた互いの情報交換や、異校種間の交流を継続していく。

・各校の授業公開への案内と参観及び協議参加

・上級学校の生徒との交流授業

・３校合同の体験的活動（浜掃除、栽培活動等）

⑥本年度の都道府県・指定都市教育委員会の地域・学校に対する支援内容について

〇　キャリア教育実践協議会の開催による連絡・調整

〇　島根県キャリア教育研究大会開催による支援

〇　授業研究協議会の際の指導助言（浜田教育事務所、県教委）

このPDFは pdfFactory 試用版で作成されました www.nsd.co.jp/share/

⑦キャリア教育実践プロジェクト（キャリア・スタート・ウィーク推進地域）との連携について

○キャリア・スタート・ウィークに向けての具体的な取組を考えたが、地域の限られた事業所において、多様な受け入れプログラムがないことや、職場の中での連続した指導養育担当の確保が難しいことから、５日間連続の受入が難しいという意見が寄せられた。そのため、２学年にまたがる職場体験学習を実施していくことで、事業所の負担を軽減する工夫をしながら地域と事業所へキャリア教育の意義を啓発していった。

⑧本年度の関係機関・他府省事業等との連携について

○　ハローワーク

Ⅰ）キャリア教育意識啓発セミナーの実施

・２年生を対象に、職場体験学習の事業所を選択する際の参考として、「仕事を選ぶとは？」の演題でお話をしていただいた。

Ⅱ）職場体験学習（２年生）への協力

○　ジョブカフェしまね

Ⅰ）キャリア教育意識啓発セミナーの実施

・３年生を対象として、職場体験前にジョブカフェしまね、地域事業所、ＰＴＡ、市役所よりアドバイザーとして招聘し、講演や授業の支援をしていただいた。

Ⅱ）職場体験学習（３年生）への協力

○　推進地域における関係機関との連携

Ⅰ）仁摩町職場体験学習推進委員会

Ⅱ）職場体験学習協力事業所との打ち合わせ

ハローワーク様との連携について今年度は、打ち合わせの時に統括の方と打ち合わせをしていたが、当日は別の方がおいでになり打ち合わせの意図がきちんと伝わらないことがあったので、今後もっと連絡を密にしていきたい。それに対してジョブカフェしまね様とは特に、研究会発表当日のセミナーだということもあり、十分に打ち合わせが実施できて大変良い成果を上げた。

各アドバイザーの方に授業に協力いただくときは、今後計画を進めていく上では今回のジョブカフェしまね様程度の打ち合わせ（ご本人と直接お会いして事前に 3 回）が実施できることが望ましい。

推進地域における関係機関との連携についても同様で、教育現場の担当とのコミュニケーションが最も重要だと考える。

このPDFは pdfFactory 試用版で作成されました www.nsd.co.jp/share/

■Ⅱ、仁摩中学校における活動内容及び成果と課題

【完成年度の具体的な活動内容】

〈研究テーマ〉

個性を生かし、広く求めて学ぶ、心豊かな生徒の育成　～キャリア教育を通して～

〈研究組織の確立〉

今年度も２つの専門部を設けることで更なる研究を推進した。

授業研究部は、本校の「キャリア教育の中核となる学習活動」の取組として、職場体験学習における事前・事後の活動の充実や自己有用感を育む体験学習の取組を行った。

それと平行して、全教育課程の見直しと、キャリア教育との関連を元にした教科経営、学級経営の見直しを図った。

地域連携部は、異学年・異校種の人と人がつながる活動を中心に取組を行った。環境改善部は、学校生活における日々の活動の見直しや清掃活動を通して、心の涵養を高める取組を行った。

Ⅰ）本校の「キャリア教育の中核となる学習活動」の取組

・　２学年にまたがる職場体験学習を実施（２年生時に３日間・３６名、３年生時に２日間・４６名）することにより、生徒自身が自己の変容を確認するとともに、新たな自分の可能性を発見することができた。

・　ハローワークなどのキャリア アドバイザーと連携し、キャリア意識啓発セミナーや授業に参加してもらうことで、社会人の生の声を伝えたり、職場体験学習における目標設定についてアドバイスを受けることで職業観を高めることができた。

「自己肯定感」と「つながり」を意識した学習プログラムの作成によって、全ての教育活動をキャリア教育の視点で見直し全体計画を充実させる。

Ⅱ）自己有用感を育む体験活動の取組

・修学旅行において、事前学習における調べ学習を通して意欲を高め、班別自主研修で行う職場訪問インタビューによってコミュニケーション能力の高揚に繋げることができた。

・自分たちの希望を出しながら社会見学（遠足）の自主研修を計画したり、班

このPDFは pdfFactory 試用版で作成されました www.nsd.co.jp/share/

内における係活動（一人一役）の役割を協力しながらやり遂げられる場を設定した。

・体育祭や文化祭の活動を通して、自他の良さに気づくことや自ら企画・運営をすることで友達との触れ合いを深めることができた。

Ⅲ）地域に学びを求めた取組

・仁摩町建築組合に木工技能指導を依頼し，プロの現場感覚に触れることで、高い技術力を支えている「仕事への心構え」を学んだ。

・日本一の砂時計として有名な「サンドミュージアム」に訪問し、身近な自然である「琴ヶ浜」についての話を聞いたりすることで、自分たちが地域にどのように関わればよいのかを考える場を設定した。

Ⅳ）「つながる」活動への取組

・４月に入学予定の小学生に対して行う入学説明会を通して、自分たちで資料を作成したり，ビデオを制作することで、相手を意識した活動の場を設定した。

・邇摩高等学校からの要請を受け、本校生徒会総務が全校生徒に呼びかけて参加した生徒が小・中・高等学校の異校種による「浜清掃」を体験した。

・小学生を対象にした交通安全教室を中学生が企画・運営することにより、自己有用感やコミュニケーション能力の高揚に繋げることができた。

・「浜清掃」同様に異校種間の活動の一環として、「サンドミュージアム」の花の植え替え作業を行うことで、異年齢集団との関わりが持てる場を設定した。

Ⅴ）心を涵養するための取組

・「挨拶や言葉遣い」、「時間を守る」、「身だしなみを整える」など日々の学校生活を振り返ることで、生徒一人ひとりが自分自身を見つめ、落ち着きのある学校生活を送ることができるようになった。

・生徒会生活委員会が中心となって、毎日の清掃活動を改善するために「アンケート調査」を実施・集計し、結果を全校生徒に返すことで清掃に対しての自治活動を啓発した。

このPDFは pdfFactory 試用版で作成されました www.nsd.co.jp/share/

【完成年度の具体的な活動内容】

〈成果〉

○「自己肯定感」と「つながり」を意識した学習プログラムによって、全ての教育活動をキャリア教育の視点で見直すことで全体計画をさらに充実したものにすることができた。また、環境整備は新たな角度からの啓発となった。

○連携を意識した異校種間の交流を通して、リーダーとフォロアーの意識が育ってきた。

○職場体験学習の実施を通して、地域の中にいる自分自身を見つめなおすことができた。また、社会の中で役に立つ自分の姿を確認することや地域の方が生徒の成長を実感できたことは大きな収穫であった。

〈課題〉

○小・中・高等学校の担当者による連絡会の開催は大きな意義があった。しかし、時間を生み出すことが難しいため何らかの方策を立てなければならない。

○キャリア教育の実践成果は、すぐさま形となって表れないため、継続した取組を行い、５年後１０年後の動向まで追跡していく事が必要である。しかし、その具体的なプランが形になっていない。

○今まで取り組んできた様々な事業を継続して行うための経済的な見通しが持たれていない。

○職場体験学習において、現在の体制では外部協力者や事業所の負担が増大しているため、今後は近隣の学校や施設との連携を密にする事が求められる。

○教職員の構成が替わっても現在の取組を継続して行い、他の学校に広めていく努力が必要である。

【生徒の勤労観・職業観に対する意識の変容について】

○本校では、キャリア教育を通して育成したい能力を焦点化するために、生徒・保護者に対してアンケート調査を実施した。その結果、生徒・保護者ともに「コミュニケーション能力」の育成を求める声が多かった。そこで、子どもの実態に照らし合わせながら「コミュニケーション能力」を能力育成の柱の１つとして、教科等の指導を行うこととした。（アンケート結果は資料として添付）

○この、推進地域指定の取り組みから、教科指導、あるいは、体験学習などの様々な活動を通してコミュニケーション能力が育成されてきたことが実感できる。特に、高等学校や小学校との交流活動。あるいは職場体験学習の２年次と３年次の生徒の変容から明らかに、コミュニケーション能力が高まっていることが感じられる。

ところが別資料として添付した「年度終わりのアンケート結果」の集計から見ると、数値に顕著な変化は現れてこない。キャリア教育は１年や２年の短いスパンで実践の効果が現れるものではないので、この結果事態は決して不満なものではないが、我々としては、高等学校やその次のステップの進路における卒業生の動向の追跡も課題になるかと考える。

このPDFは pdfFactory 試用版で作成されました www.nsd.co.jp/share/

〇アンケートの項目で「早く仕事に就きたい」と思わない生徒の割合が増加している。この背景に、生徒との会話や進路の希望からも「先生、大学生になりたいよ。」という生徒が、数年前に比べて増加している様子が顕著に感じられる。数年前は、高校を出たら働くという生徒がかなりいたのに、今年の 3 年生はその希望がほとんど無く、進路も極端に普通科志望である。それは、現 2 年生にも感じられる。単にモラトリアム傾向ということではなく、物作り（一次産業）従事希望の減少を感じさせられる傾向と考える。この意識に一石を投じる働きかけが、今後のキャリア教育には重要ではないかと考える。

〇フリーターに対する生徒の意識について、フリーターになりたくないという意識が、アンケート結果に反映している。確かに、現在の日本社会の機構からいえばフリーターのような短期契約の雇用は決して好まれることはない。生徒や保護者の中に、「きちんと定職に就かなくては不安だ。」という意識があり、定職に就くための努力を大切にしている。しかし、今後のキャリア教育の中で、諸外国の実態や、現在の雇用状況、あるいは個人の能力の開発といった視点も、考察させる中で、本当に必要な「自分の JOB」について考え、生涯働くということに対して、もう一度見通しを持たせ、また、今の日本の仕組みが今後どう変化していくかの考察まで、高等学校までの教育のスパンで実現できれば素晴らしいことだと考える。

【今後の取組方針について】

〇　地域と家庭、小・中・高等学校の連携を更に深めた取組を継続していく必要がある。

〇　キャリア教育を推進していく上で、社会情勢との関係は不可欠であるため、指導者が常に情勢を見極めながら推し進めていく必要がある。

〇　今までに実践してきた活動を精選することにより、効果的な取組を展開していくように工夫し、教職員が移動しても継続できる取り組みにする。

〇　小学校から中学校、中学校から高等学校への接続をどのようにしていくことが理想的であるかなど、今の取組を継続していくための具体的な方策を立てていく。

このPDFは pdfFactory 試用版で作成されました www.nsd.co.jp/share/